

価値創造の軌跡

1968年～1999年

創業期・発展期

当社は群馬県高崎市でカメラ専門店として創業し、1978年に東京池袋へ進出。これを機に社名を「ビックカラー」から「ビックカメラ」へ変更し、本格的な店舗展開の礎を築きました。発展期には、カメラ専門店から家電・パソコンなど幅広い商品へと取り扱いを拡大。ポイントカード導入や池袋本店の開店により顧客基盤を強化しました。また、「こだわり」の専門店の集合体を目指し、株式会社ビックコンタクトを皮切りに、株式会社生毛工房や日本BS放送株式会社を設立し、非家電サービスにも積極的に取り組み、事業の多角化を推進しました。



飛躍期

1999年～2005年

2001年、立川店・なんば店・有楽町店・札幌店など駅前大型店舗を次々に開店し、都市型店舗戦略を本格化しました。さらに、インターネット通信販売を開始し、リアルとデジタルの融合を推進。加えて、リサイクル事業に着手し、同事業を担う株式会社フューチャー・エコロジーを設立することで、循環型ビジネスモデルの基礎を構築しました。また、非家電サービス領域の強化を目的に、株式会社ビック酒販を設立し、専門性を活かした事業の多角化を加速。当社の成長を大きく前進させるターニングポイントとなりました。

変革期

2005年～2012年

Innovation

この時期、当社は株式会社ソフマップの子会社化によりリユース事業を強化し、循環型ビジネスの推進を加速しました。さらに、環境省の「エコ・ファースト企業」第1号認定を取得し、地球温暖化対策など持続可能な社会づくりに貢献すべく取り組みを強化しました。家電エコポイント制度による省エネ家電の普及やアナログテレビ放送終了など、業界全体が大きな転換期を迎える中、当社は迅速な体制整備と事業対応を進め、競争優位性を確保。持続可能な成長に向けた基盤を築いた重要なフェーズとなりました。

Challenge & Shift

2012年～現在

挑戦期・転換期

当社は、株式会社コジマの子会社化により駅前・郊外の相互連携を強化し、顧客基盤の拡充を推進しました。EC事業の強化やサービス領域の拡充を通じて、リアルとデジタルの融合を深化させる一方、インバウンド需要への対応にも取り組んでいます。さらに、サステナビリティ経営を推進し、事業活動そのものが社会課題の解決や持続可能な社会づくりに貢献する仕組みを強化しています。今後は、中期経営計画「Vision 2029」に基づき、企業価値向上に努め、変化する市場環境に柔軟に対応しながら挑戦を続けていきます。

